

本社:〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX 13階

●本社の担当部署は下記の通りですのでご照会下さい。

床商品営業部:TEL03-6625-6140 FAX03-6625-6131

# 日鉄フラットデッキ エコタイプ

2022-05 Updated

## 支店・営業所

長野営業所	☎026(228)6318 FAX026(228)6317 〒380-0823	長野市南千歳1-12-7 新正和ビル
北海道支店	☎011(281)2551 FAX011(231)6237 〒060-0042	札幌市中央区大通西5-11-1
東北支店	☎022(221)4572 FAX022(265)6553 〒980-0811	仙台市青葉区一番町3-6-1 一番町平和ビル
北東北営業所	☎019(652)4648 FAX019(651)7445 〒020-0021	盛岡市中央通2-2-5 甲南アセット盛岡ビル
釜石営業所	☎0193(22)5167 FAX0193(22)5168 〒026-8567	釜石市鈴子町23-15 東日本製鉄所釜石地区本館
新潟支店	☎025(247)1321 FAX025(241)8304 〒950-0087	新潟市中央区東大通1-3-10 大樹生命新潟ビル
静岡支店	☎054(255)0441 FAX054(251)2950 〒420-0857	静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル
名古屋支店	☎052(564)7221 FAX052(564)4754 〒450-0003	名古屋市中村区名駅南2-13-18 NSビル
北陸支店	☎076(432)6306 FAX076(432)1675 〒930-0004	富山市桜橋通り1-18 北日本桜橋ビル
大阪支店	☎06(6202)1682 FAX06(6202)2005 〒541-0042	大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋三井ビルディング
四国支店	☎087(823)4123 FAX087(823)4124 〒760-0017	高松市番町1-6-1 両備高松ビル
中国支店	☎082(511)1008 FAX082(223)0538 〒730-0017	広島市中区鉄砲町10-12 広島鉄砲町ビルディング
山陰営業所	☎0852(27)5323 FAX0852(27)1145 〒690-0006	松江市伊勢宮町519-1 松江大同生命ビル
九州支店	☎092(281)8113 FAX092(281)9908 〒812-0025	福岡市博多区店屋町5-18 博多NSビル
南九州営業所	☎099(295)6270 FAX099(222)3122 〒892-0844	鹿児島市山之口町2-30 鹿児島第一生命ビルディング
沖縄営業所	☎098(861)7911 FAX092(281)9909 〒900-0015	那覇市久茂地1-12-12 ニッセイ那覇センタービル
製造所		
野木製造所	☎0280(57)4331 FAX0280(57)4717 〒329-0105	栃木県下都賀郡野木町川田33-15
大阪製造所	☎072(268)1131 FAX072(268)1813 〒592-0001	高石市高砂2-11

## ■ご注意とお願い

- 本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を証明するためのものであり、「規格」の規定事項として明記したものの以外は、保証を意味するものではありません。
- 本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、各担当部署にお問合わせください。
- 本資料に記載された内容の無断転載や複製はご遠慮ください。

# 床がすべてを語る。

## 床型枠用鋼製デッキプレート (セーフティフラット エコタイプ)

特許取得済

「フラットデッキ」は、多くのデッキプレート製品の中でも、型枠専用に関係された特別なデッキプレートです。恒久的な構造部材ではなく、施工時のみ機能が求められる型枠専用ということで、現場作業における安全性の確保を最優先に開発された製品です。

「セーフティフラット エコタイプ(商品名)」は、「フラットデッキ(商品名:セーフティフラット)」の平板部に小さいリブを設けることによって断面性能を向上させ、従来より板厚が小さい断面で設計が可能になります。もちろん施工性等については従来と変わりません。

従来の「セーフティフラット(商品名)」よりも軽量化が図れる「セーフティフラット エコタイプ(商品名)」のご使用をお奨めいたします。

# 床施工の革命

## 軽量性を実現しさらなる経済性を確保

### 優れた施工性

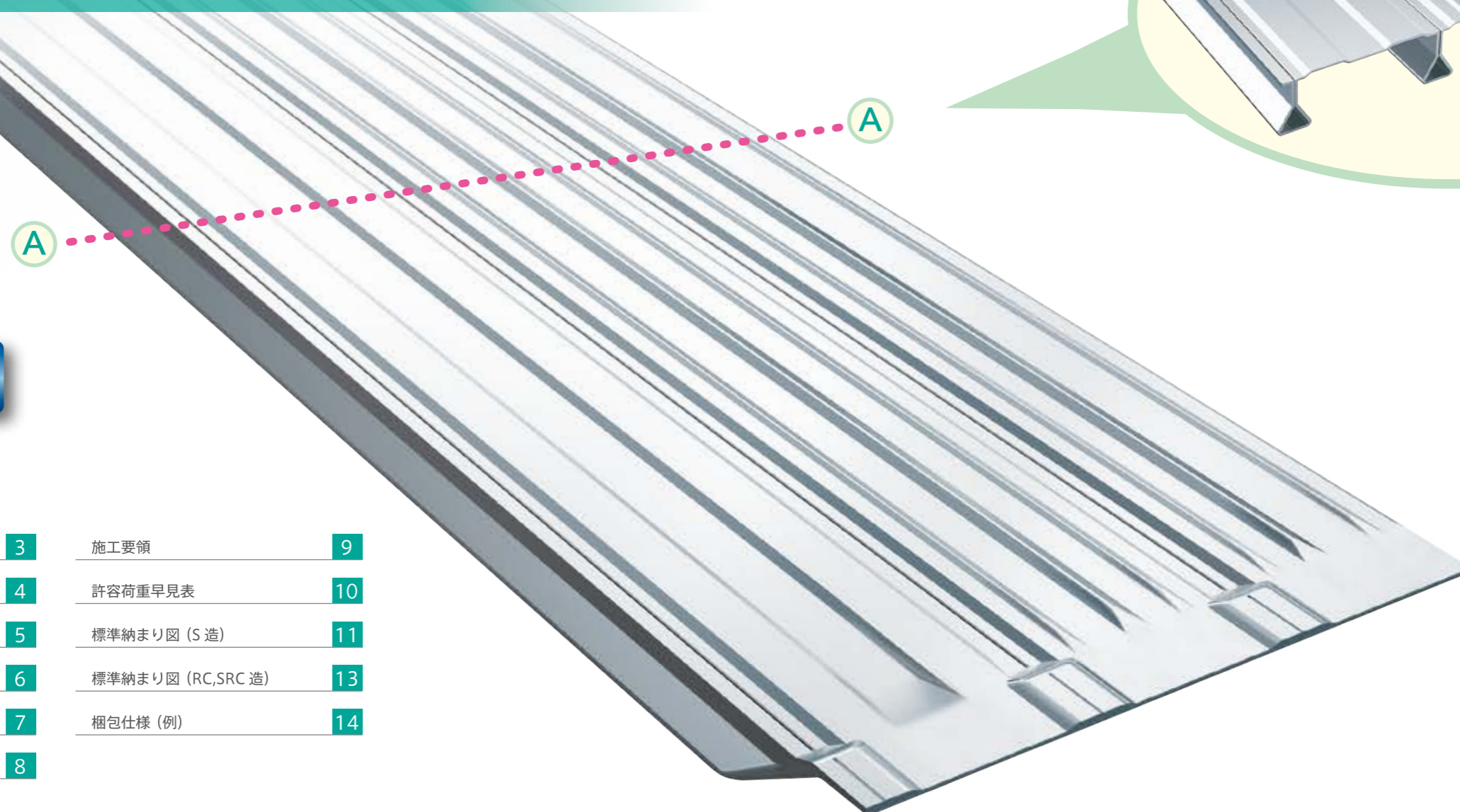
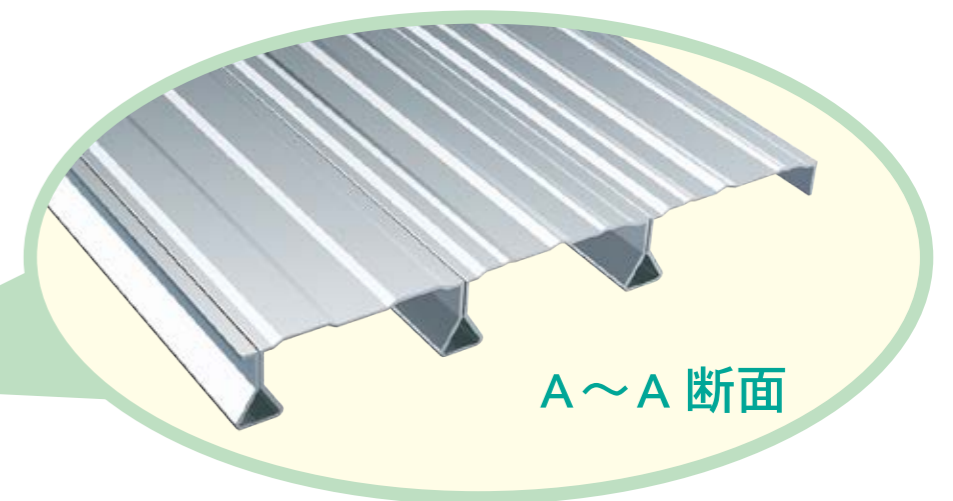
SFエコには梁へのかかり代が容易に確認できるスリット孔や、鉄骨梁にデッキプレートを溶接するまでのデッキプレートずれ止め用の釘孔を設けています。

### 工期短縮

支持サポート類の仮設資材の削減が可能です。また、型枠の解体が不要なため、一般的な型枠工法に比べ資材の節約と工期の短縮が可能です。

### NEW コスト低減

従来のフラットデッキと比べて、フラットデッキの重量を最大で20%程度軽量化することができます。デッキプレート上面の凹凸による無駄なコンクリートは厚さ1.4mm相当です。



### 最適用途



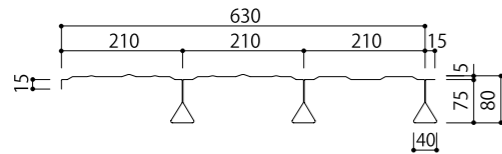
### CONTENTS

形状・寸法	3	施工要領	9
製品仕様	4	許容荷重早見表	10
設計	5	標準納まり図(S造)	11
エンドクローズ強度検定時の注意点	6	標準納まり図(RC, SRC造)	13
許容スパン早見表	7	梱包仕様(例)	14
許容スパン早見表(中間支保工有)	8		

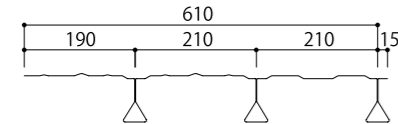
## 形状・寸法

注) 改良等のため予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

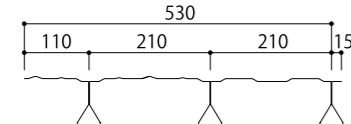
標準タイプ  
(SFエコ)



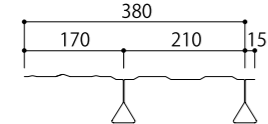
役物 - A タイプ  
(SFエコ A)



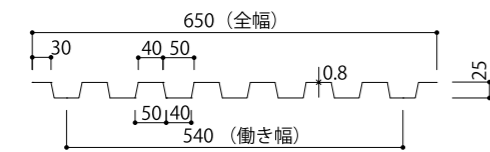
役物 - B タイプ  
(SFエコ B)



役物 - C タイプ  
(SFエコ C)

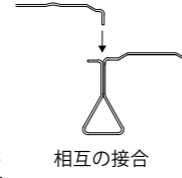


KP エンクロ  
(KP-ES-T)



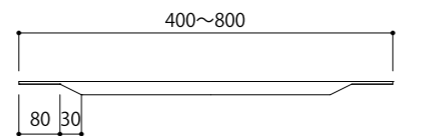
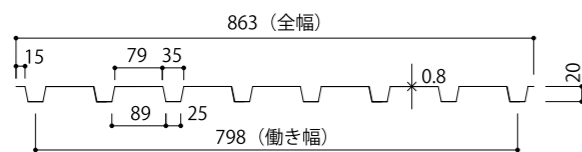
エンクロ部長さA (mm)	対象
85	標準長さ
50	地中梁、RC梁

注) エンクロ部長さAは、オフセット寸法が40mm以下になるように選択して下さい。

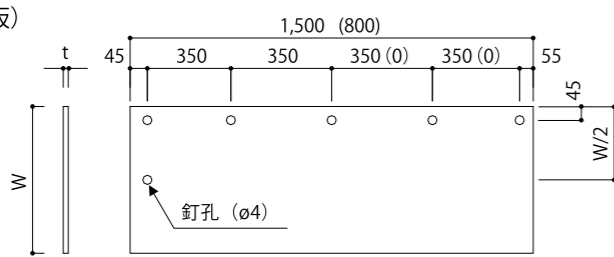


相互の接合

SF キーストン  
(SFKP)



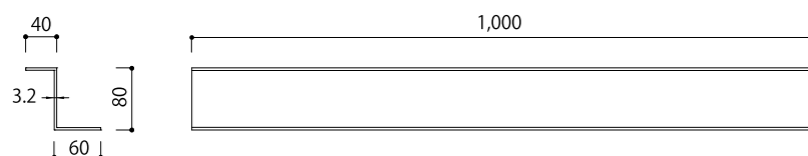
P タイプ (調整板)  
(SFPR)



略号	板厚 t (mm)	幅 W (mm)	長さ (mm)
P2	1.2	200	1,500又は800
P3	1.2	300	
P4	1.6	400	

注 ( ) 内は長さ 800 の製品の寸法です。

Z 金物  
(SFエコ Z)



注) 斜梁のデッキ切断部に用います。

## 製品仕様

材質・機械的性質

品名	板厚 (mm)	材質 (JIS G3302)	降伏点 又は 耐力 (N/mm <sup>2</sup> )	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )
SFエコ SFエコA SFエコB SFエコC	0.8	SGC340またはSGCC	235 以上	295 以上
	1.0	SGCC	205 以上	
	1.2			
	1.4			
	1.6	SGHC		
KP-ES-T	0.8	SGCC	205 以上	295 以上
SFKP	0.8			

製品質量

品名	板厚 (mm)	質量 (Z12)		質量 (Z27)	
		(kg/m)	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m)	(kg/m <sup>2</sup> )
SFエコ	0.8	7.99	12.7	8.23	13.1
	1.0	9.92	15.7	10.2	16.2
	1.2	11.8	18.7	12.1	19.2
	1.4	13.8	21.9	14.0	22.2
	1.6	15.7	24.9	15.9	25.2
KP-ES-T	0.8	5.89	10.1	-	-
SFKP	0.8	7.01	8.78	-	-
SFエコZ	3.2	4.31	-	-	-

めっきの付着量

種類	表示記号	両面3点平均付着量 (g/m <sup>2</sup> )	標準生産
溶融亜鉛めっき	Z12	120	○
	Z27	275	
スーパーダイヤモンド®	K12	120	*1
	K18	180	
	K27	275	

• 「スーパーダイヤモンド」は日本製鉄株式会社の高耐食性めっき鋼板の商品名です。

\*1 Z27、スーパーダイヤモンド製品をご希望の場合は納期・最小ロットについてお問合せ下さい。  
(KP-ES-T、SFKP 及び SFエコZ については Z27、スーパーダイヤモンド製品はありません)

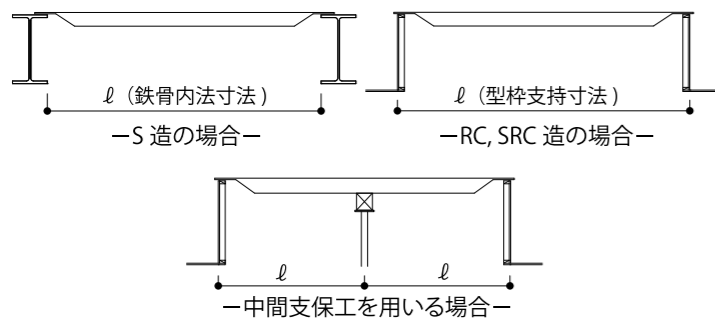
短期許容応力度・断面性能・許容支圧荷重

品名	板厚 (mm)	短期許容応力度 (N/mm <sup>2</sup> )	断面二次モーメント (×10 <sup>4</sup> mm <sup>4</sup> / m )	断面係数 (×10 <sup>3</sup> mm <sup>3</sup> / m )	許容支圧荷重 (N/m)
SFエコ SFエコA SFエコB SFエコC	0.8	205	132	22.0	9,800
	1.0		165	27.7	14,700
	1.2		197	33.4	19,600
	1.4		230	39.1	19,600
	1.6		262	44.9	19,600
KP-ES-T	0.8	12.2	12.2	9.8	-
SFKP	0.8	6.12	6.12	4.22	-

- 断面二次モーメントは全断面有効の値です。
- 断面係数は有効幅 (=50t) を考慮した値です。

## 設計

## 1 スパンの取り方



## 2 安全性を確保するための施工割増係数(RC・SRC造の場合)

施工状況の種類	施工割増係数(α)	施工条件
I類	1.00	荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合。
II類	1.25	I類以外の場合で、板厚1.0mmまたは1.2mmのSFエコを使用する場合。
III類	1.50	I類以外の場合で、板厚0.8mmのSFエコを使用する場合。

注) S造の場合はα=1.00とする。

## 3 施工時荷重の設定

$$W = W_{DL} + W_{DP} + W_{WL} \text{ (N/m}^2\text{)}$$

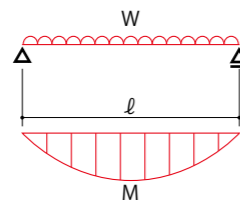
W<sub>DL</sub>: 鉄筋コンクリートスラブ自重。溝部コンクリート(換算スラブ厚1.4mm)を含む。

W<sub>DP</sub>: SFエコ自重

W<sub>WL</sub>: 施工時作業荷重。ポンプ工法の場合は1,470N/m<sup>2</sup>以上、ホッパー・バケット工法の場合は2,450N/m<sup>2</sup>以上として下さい。

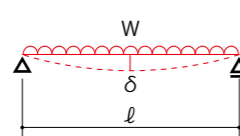
## 4 断面応力度の検定

$$\sigma = \frac{M}{Z_t} = \frac{W \times \ell^2}{8 \times Z_t} \times 10^3 \leq \frac{f_b}{\alpha}$$



## 5 たわみの検定

$$\delta = C \times \frac{5 \times W \times \ell^4}{384 \times E \times I} \times 10^9 \leq \frac{1000 \ell}{180} + 5$$



## 6 エンドクローズ強度の検定

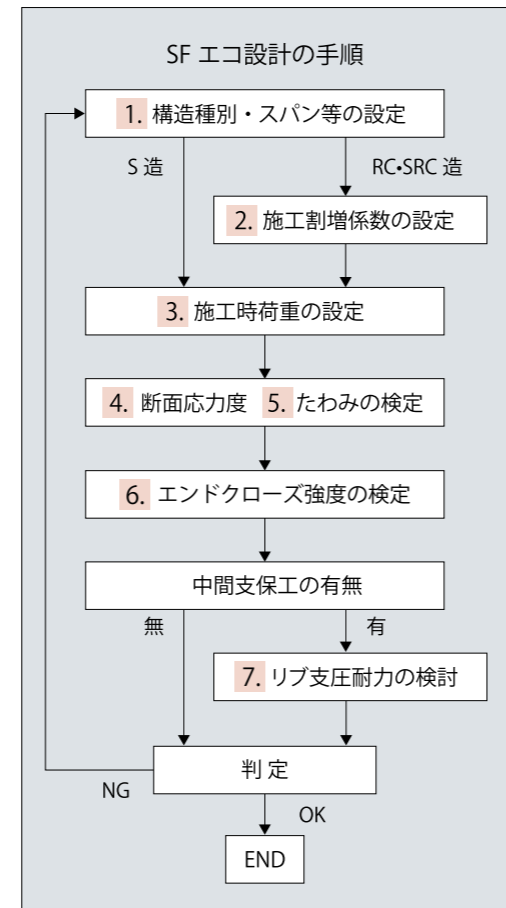
デッキ端部の反力がエンドクローズ強度 ePa を上回らないことを確認して下さい。

$$P_e = W \times \frac{\ell}{2} \leq ePa$$

## 7 リブ支圧耐力の検定(中間支保工を設けた場合のみ)

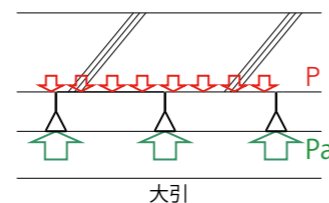
デッキリブが支圧荷重 P によって座屈しないことを確認して下さい。

$$P = W \times \frac{\ell}{2} \leq Pa$$



M	: 最大曲げモーメント (Nmm/m)
Z <sub>t</sub>	: 断面係数 (mm <sup>3</sup> /m)
W	: 施工時の鉛直荷重 (N/m <sup>2</sup> )
C	: たわみ算定用係数 (=1.4)*
ℓ	: スパン (m)
E	: 鋼材のヤング係数 (=2.05×10 <sup>5</sup> N/mm <sup>2</sup> )
I	: 断面二次モーメント (mm <sup>4</sup> /m)
α	: 施工割増係数 (-)
f <sub>b</sub>	: 許容曲げ応力度 (=235N/mm <sup>2</sup> (t=0.8mm), 205N/mm <sup>2</sup> (t=1.0~1.6mm))
P <sub>a</sub>	: 許容支圧荷重 (N/m)

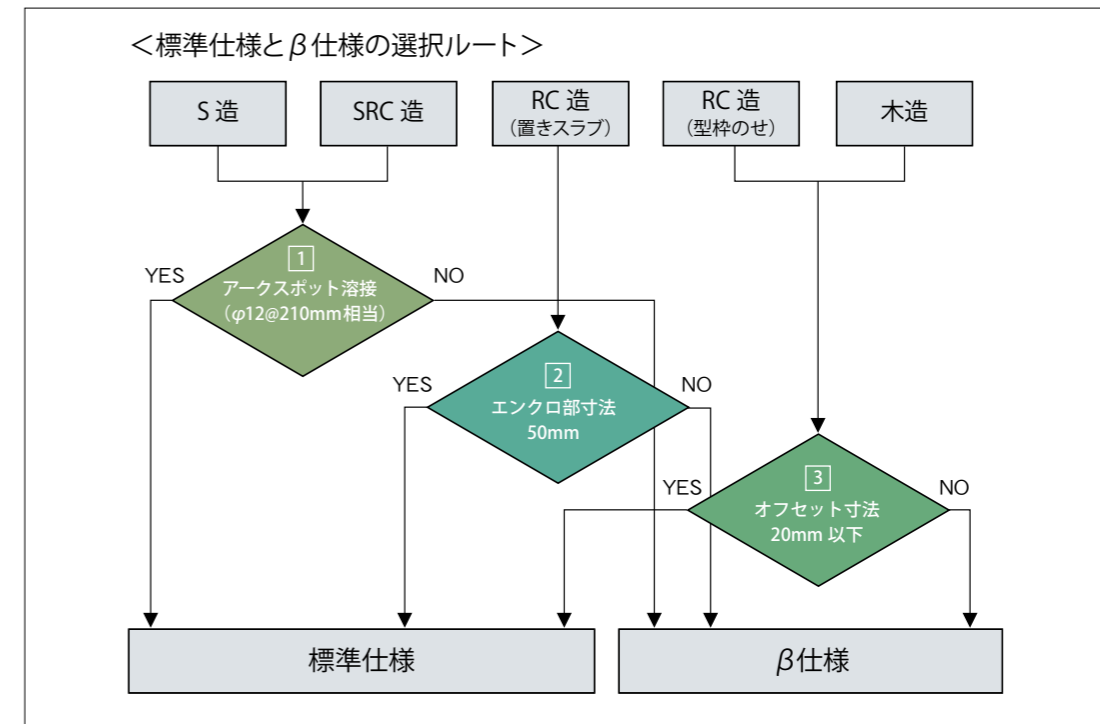
\*実験により定めた数値です。

エンドクローズ強度検定時の注意点  
「標準仕様」または「β仕様」の選択について

## 板厚0.8mmかつ支保工無しの場合のみ対象

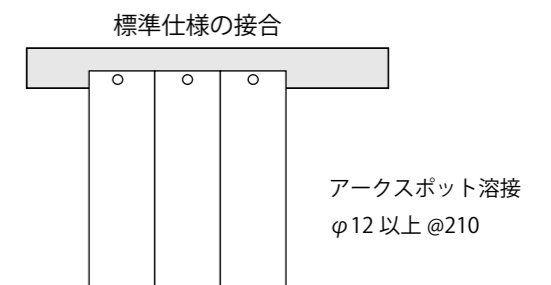
エンドクローズ強度は、梁との接合状況やオフセット寸法の影響を受けます。「β仕様」とは、梁との接合の影響を見込まない仕様として設定しました。現場施工時の使用状況に応じて選択ください。

「標準仕様」と「β仕様」の選択については、以下のルートでご確認ください。



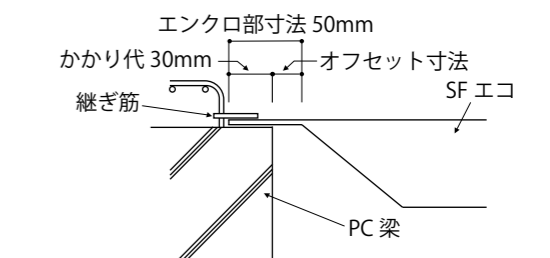
## 1 アークスポット溶接

『床型枠用鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説 平成18年版』(以下、フラット指針)に記載された溶接仕様で施工される場合は「標準仕様」となります。



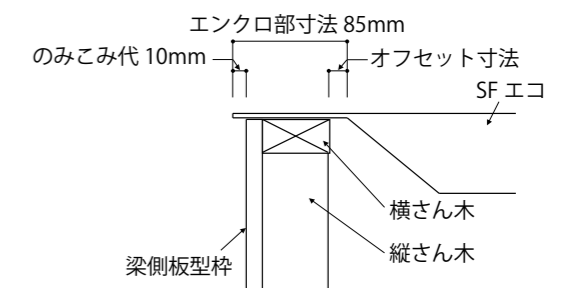
## 2 エンクロ部寸法

エンクロ部寸法が50mmのSFエコを使用した場合、オフセット寸法は20mm以下となりますので、「標準仕様」となります。ただし、エンクロ部寸法が85mmのSFエコを使用するなどオフセット寸法が20mmを超え40mm以下となる場合は「β仕様」を選択して下さい。



## 3 オフセット寸法

オフセット寸法が20mm以下であれば「標準仕様」となります。ただし、梁型枠への釘止めはアークスポット溶接と比較して接合強度が小さいため、オフセット寸法が20mmを超え40mm以下の場合は「β仕様」を選択してください。



## 許容スパン 早見表

「標準仕様」または「β仕様」の選択についてはP6を参照して下さい。

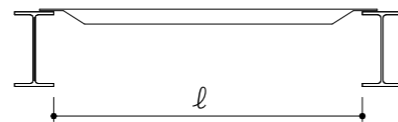
(施工時作業荷重  $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$ )

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

構造		S造又はRC造・SRC造 (おけつ寸法40mm以下)						RC造・SRC造 (おけつ寸法40mm以下)		
施工状況の種類		I類						II類		III類
SFエコ板厚 (mm)		0.8	0.8 β仕様*	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8
種類	スラブ厚	施工割増係数: $\alpha = 1.0$						$\alpha = 1.25$		$\alpha = 1.5$
普通 コンクリート 24 (kN/m <sup>3</sup> )	120	2,880	2,880	3,080	3,250	3,400	3,530	*2,820	*3,090	*2,470
	130	2,830	2,830	3,030	3,190	3,350	3,480	*2,750	*3,010	*2,400
	140	2,790	2,790	2,980	3,150	3,300	3,430	*2,680	*2,940	*2,350
	150	2,750	2,750	*2,930	3,100	3,250	3,380	*2,620	*2,870	*2,290
	160	2,710	2,710	*2,870	3,060	3,210	3,330	*2,560	*2,810	*2,240
	170	2,680	2,680	*2,810	3,020	3,160	3,290	*2,510	*2,750	*2,190
	180	*2,630	*2,630	*2,750	2,980	3,120	3,250	*2,460	*2,690	*2,150
	190	*2,580	*2,580	*2,700	*2,950	3,090	3,210	*2,410	*2,640	*2,110
	200	*2,530	*2,530	*2,650	*2,900	3,050	3,170	*2,370	*2,590	*2,070
	210	*2,480	*2,480	*2,600	*2,850	3,020	3,140	*2,320	*2,550	*2,030
	220	*2,440	*2,440	*2,550	*2,800	2,980	3,100	*2,280	*2,500	*1,990
	230	*2,400	■2,350	*2,510	*2,750	2,950	3,070	*2,240	*2,460	*1,960
	240	*2,360	■2,280	*2,470	*2,710	*2,920	3,040	*2,210	*2,420	*1,930
	250	*2,320	■2,210	*2,430	*2,660	*2,880	3,010	*2,170	*2,380	*1,900
	260	*2,290	■2,140	*2,390	*2,620	*2,830	2,980	*2,140	*2,350	*1,870
	270	*2,250	■2,080	*2,360	*2,580	*2,790	2,950	*2,110	*2,310	*1,840
	280	*2,220	■2,020	*2,320	*2,550	*2,750	2,930	*2,080	*2,280	*1,810
290	*2,190	■1,960	*2,290	*2,510	*2,710	*2,900	*2,050	*2,250	*1,790	
300	*2,160	■1,910	*2,260	*2,480	*2,680	*2,860	*2,020	*2,210	*1,760	

軽量 コンクリート 20 (kN/m <sup>3</sup> )	120	2,980	2,980	3,190	3,360	3,520	3,660	*2,990	*3,270	*2,610
	130	2,940	2,940	3,140	3,310	3,470	3,610	*2,920	*3,190	*2,550
	140	2,900	2,900	3,100	3,270	3,420	3,550	*2,850	*3,120	*2,490
	150	2,860	2,860	3,050	3,220	3,370	3,510	*2,790	*3,050	*2,440
	160	2,820	2,820	3,020	3,180	3,330	3,460	*2,730	*2,990	*2,390
	170	2,780	2,780	2,980	3,140	3,290	3,420	*2,680	*2,930	*2,340
	180	2,750	2,750	*2,930	3,100	3,250	3,380	*2,620	*2,870	*2,290
	190	2,720	2,720	*2,880	3,070	3,210	3,340	*2,580	*2,820	*2,250
	200	2,690	2,690	*2,830	3,030	3,180	3,300	*2,530	*2,770	*2,210
	210	*2,660	*2,660	*2,780	3,000	3,140	3,270	*2,490	*2,720	*2,170
	220	*2,610	*2,610	*2,730	2,970	3,110	3,240	*2,440	*2,680	*2,130
	230	*2,570	*2,570	*2,690	2,940	3,080	3,200	*2,410	*2,640	*2,100
	240	*2,530	*2,530	*2,650	*2,900	3,050	3,170	*2,370	*2,590	*2,070
	250	*2,490	*2,490	*2,610	*2,860	3,020	3,140	*2,330	*2,550	*2,030
	260	*2,460	*2,460	*2,570	*2,820	3,000	3,110	*2,300	*2,520	*2,000
	270	*2,420	■2,400	*2,530	*2,780	2,970	3,090	*2,260	*2,480	*1,980
	280	*2,390	■2,330	*2,500	*2,740	2,940	3,060	*2,230	*2,450	*1,950
290	*2,350	■2,270	*2,460	*2,700	*2,920	3,040	*2,200	*2,410	*1,920	
300	*2,320	■2,210	*2,430	*2,660	*2,880	3,010	*2,170	*2,380	*1,900	

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (1.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を  $1,470\text{N/m}^2$  とした場合です。それ以外の場合はお問合せ下さい。
- β仕様※1の場合、エンドクローズ強度により許容スパンが決まる場合があります (表中■印)。
- 上表中の\*印はSFエコの曲げ降伏により許容スパンが決まっています。
- RC、SRC造などで、使用スパンが3,000mmを超える場合は、スパン中間に支保工を設けて下さい。
- スラブ厚が300mmを超える場合は、別途ご相談下さい。

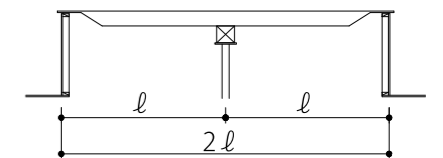
許容スパン 早見表  
(中間支保工有)(施工時作業荷重  $W_{WL} = 1,470\text{N/m}^2$ )

(単位: mm ただし10mm 単位にて表示)

構造		S造又はRC・SRC造					RC・SRC造		
施工状況の種類		I類					II類		III類
SFエコ板厚 (mm)		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8
種類	スラブ厚	施工割増係数: $\alpha = 1.0$					$\alpha = 1.25$		$\alpha = 1.5$
普通 コンクリート 24 (kN/m <sup>3</sup> )	120	◆4,340	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	◆4,340
	130	◆4,120	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,120
	140	◆3,920	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,920
	150	◆3,740	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,740
	160	◆3,580	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,580
	170	◆3,430	↓	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,430
	180	◆3,290	4,900	↑	↑	↑	4,900	↑	◆3,290
	190	◆3,160	◆4,720	↑	↑	↑	◆4,720	↑	◆3,160
	200	◆3,040	◆4,550	↑	↑	↑	◆4,550	↑	◆3,040
	210	◆2,930	◆4,380	↑	↑	↑	◆4,380	↑	◆2,930
	220	◆2,830	◆4,230	↑	↑	↑	◆4,230	↓	◆2,830
	230	◆2,740	◆4,090	↑	↑	↑	◆4,090	4,900	◆2,740
	240	◆2,650	◆3,960	↑	↑	↑	◆3,960	4,850	◆2,650
	250	◆2,560	◆3,830	↓	↑	↑	◆3,830	4,770	◆2,560
	260	◆2,490	◆3,720	4,900	↑	↑	◆3,720	4,700	◆2,490
	270	◆2,410	◆3,610	◆4,790	↑	↑	◆3,610	4,630	◆2,410
	280	◆2,340	◆3,500	◆4,660	↑	↑	◆3,500	4,560	◆2,340
290	◆2,280	◆3,410	◆4,530	↓	↓	◆3,410	4,500	◆2,280	
300	◆2,220	◆3,310	◆4,410	4,900	4,900	◆3,310	◆4,410	◆2,220	

軽量 コンクリート 20 (kN/m <sup>3</sup> )	120	◆4,870	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	◆4,870
	130	◆4,640	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,640
	140	◆4,430	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,430
	150	◆4,240	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,240
	160	◆4,060	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆4,060
	170	◆3,900	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,900
	180	◆3,750	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,750
	190	◆3,610	↑	↑	↑	↑	↑	↑	◆3,610
	200	◆3,480	↓	↑	↑	↑	↓	↑	◆3,480
	210	◆3,360	4,900	↑	↑	↑	4,900	↑	◆3,360
	220	◆3,250	◆4,850	↑	↑	↑	◆4,850	↑	◆3,250
	230	◆3,140	◆4,700	↑	↑	↑	◆4,700	↑	◆3,140
	240	◆3,050	◆4,550	↑	↑	↑	◆4,550	↑	◆3,050
	250	◆2,950	◆4,410	↑	↑	↑	◆4,410	↑	◆2,950
	260	◆2,870	◆4,290	↑	↑	↑	◆4,290	↑	◆2,870
	270	◆2,790	◆4,160	↑	↑	↑	◆4,160	↓	◆2,790
	280	◆2,710	◆4,050	↑	↑	↑	◆4,050	4,900	◆2,710
290	◆2,640	◆3,940	↓	↓	↓	◆3,940	4,840	◆2,640	
300	◆2,570	◆3,840	4,900	4,900	4,900	◆3,840	4,770	◆2,570	

- 許容スパンは、表のスラブ厚に溝部の換算スラブ厚 (1.4mm) を加算したコンクリート量から算出しています。
- 上表は施工時の作業荷重を  $1,470\text{N/m}^2$  とした場合です。それ以外の場合はお問合せ下さい。
- 上表中の◆印はSFエコリブの支圧降伏により許容スパンが決まっています。
- 表中の許容スパンは  $2l$  を示します。
- スラブ厚が300mmを超える場合は、別途ご相談下さい。



## 施工要領

項目	施工要領
1. 計画	(1) 工法、応力、たわみを確認し、割付図（施工図）を作成する (2) 鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。
2. 搬入・養生	(1) SFエコにワイヤー傷、あて傷がつかないように、また、SFエコの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。 (2) 鉄骨梁や型枠の上に仮置きする場合、過度の荷重がかからないように分散配置し、また、梁から落下しないように十分養生する。
3. 敷き込み	<p>S造</p> <p>(1) 敷込み前に必ず梁上を清掃する。 (2) 柱回り、梁接合部、梁段差部にてデッキ受け材が施工図通り取付けられているか確認する。 (3) 割付図に従いSFエコを不陸のないように敷込む。 (4) SFエコをアークスポット溶接（標準仕様はφ12以上@210）により梁へ接合する。 (5) SFエコ（標準品）相互の接合は差込み方式になるので通常の場合、溶接は必要ないが、スパンが大きい場合や、デッキ相互の馴染みが良くない場合は必要に応じて溶接する。 (6) SFエコ（標準品）と役物・調整板との重なり部分は、溶接又はビス等で接合する。</p> <p>RC・SRC造</p> <p>(1) 梁型枠の強度・寸法、また縦横木の取付等をチェックする。 (2) 割付図に従いSFエコを不陸のないように敷込む。 (3) SFエコは型枠に釘で接合する。調整板は必要に応じて釘孔付きを使用する。 (4) 標準品と役物、調整板とをアークスポット溶接で接合できない場合、タッピングビスやポップリベット等で接合する。 (5) 梁型枠内にデッキをのみ込ませるか落下防止材の取付等により梁型枠脱型後、デッキが落下しないように施工する。</p> <p>置きスラブ</p> <p>(1) 梁間隔が割付通りか確認する。ずれている場合はSFエコをのみ込みできないことがあるので注意する。 (2) コンクリート梁にデッキを乗せ掛ける場合、乗せ掛け部は不陸がないように平坦にする。 (3) SFエコとコンクリート梁との接合方法は、梁への影響を考慮し、事前に検討する。</p>
4. 切断・孔明け	(1) 切断はガス、プラズマ、電動のこ、グラインダー等を、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してSFエコの材質・形状を損なわないよう行う。 (2) SFエコを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分注意する。 (3) スリーブ等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にSFエコを切断する。
5. その他	(1) RC・SRC造では梁型枠がデッキ型枠の支保工の役目をするため梁側型枠の取り外し時期は十分検討する。 (2) 外周梁については必要に応じて偏芯荷重対策を施す。 (3) 中間支保工を用いる場合、大引きがデッキのむくりを拘束しないよう設置する。 (4) デッキスパンが短くスラブが極厚の場合、デッキ端部の強度や中間支保工を用いる場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧耐力を事前に確認する。

### 【使用上の注意】

- 仮設作業床として使用する場合、局部的な集中荷重のかからないように注意して下さい。（社）日本建築学会「型枠の設計・施工指針案」等を参照し、安全性を確認して下さい。
- 逆打ち工法および湧水ピット等に利用する場合、発錆のおそれがありますので、充分な対策を講じない限り、適用しないで下さい。
- 雨水等がSFエコ表面に付着している時は、大変すべり易いので注意して下さい。
- SFエコ端部は鋭利な形状になっていますので、必ず皮手袋等を使用して取り扱って下さい。
- SFエコを結束しているバンドを切断する時は、梁へのかかり代に注意し、製品が移動落下しないように注意を払って下さい。

## 許容荷重 早見表

### 標準仕様の場合

（単位：N/m<sup>2</sup> 小数点以下切り捨て）

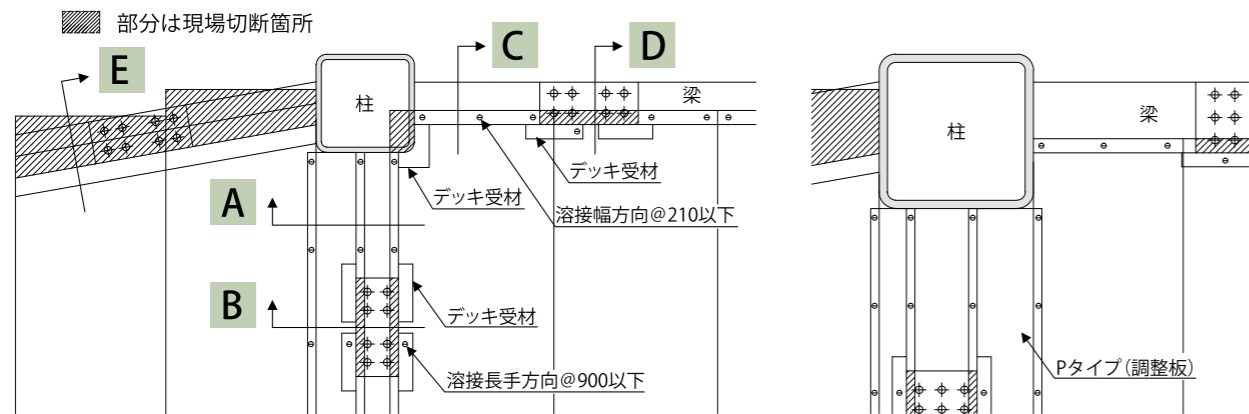
施工状況の種類 板厚(mm) スパン(m)	I 類				
	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6
	施工割増係数：α=1.0				
1.5	*18,382	*20,190	*24,344	*28,499	*32,727
1.6	*16,156	*17,745	*21,396	*25,048	*28,764
1.7	*14,311	*15,719	*18,953	*22,188	*25,479
1.8	*12,765	*14,020	*16,906	*19,791	*22,727
1.9	*11,457	*12,583	*15,173	*17,762	*20,397
2.0	*10,340	*11,357	*13,694	*16,031	*18,409
2.1	*9,378	*10,301	*12,420	*14,540	*16,697
2.2	*8,545	*9,385	*11,317	*13,248	*15,214
2.3	*7,818	*8,587	*10,354	*12,121	*13,919
2.4	*7,180	*7,886	*9,509	*11,132	*12,784
2.5	*6,617	*7,268	*8,764	*10,259	*11,781
2.6	*6,118	*6,720	*8,102	*9,485	*10,892
2.7	5,586	*6,231	*7,513	*8,796	*10,100
2.8	4,964	*5,794	*6,986	*8,179	*9,392
2.9	4,430	*5,401	*6,513	*7,624	*8,755
3.0	3,970	4,963	5,925	6,918	7,881
3.1	3,571	4,464	5,330	6,223	7,089
3.2	3,224	4,030	4,812	5,618	6,400
3.3	2,920	3,650	4,358	5,089	5,797
3.4	2,653	3,317	3,960	4,623	5,267
3.5	2,418	3,022	3,608	4,213	4,799
3.6	2,209	2,761	3,297	3,849	4,385

### β仕様の場合

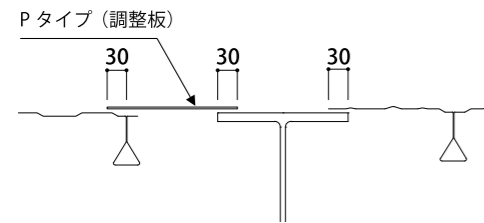
施工状況の種類 板厚(mm) スパン(m)	I 類					II 類		III 類
	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8
	施工割増係数：α=1.0					α=1.25		α=1.5
1.5	●11,253	●17,867	*24,344	*28,499	*32,727	*16,152	*19,475	●11,253
1.6	●10,550	●16,750	*21,396	*25,048	*28,764	*14,196	*17,117	●10,550
1.7	●9,929	*15,719	*18,953	*22,188	*25,479	*12,575	*15,162	*9,540
1.8	●9,378	*14,020	*16,906	*19,791	*22,727	*11,216	*13,524	*8,510
1.9	●8,884	*12,583	*15,173	*17,762	*20,397	*10,067	*12,138	*7,638
2.0	●8,440	*11,357	*13,694	*16,031	*18,409	*9,085	*10,955	*6,893
2.1	●8,038	*10,301	*12,420	*14,540	*16,697	*8,240	*9,936	*6,252
2.2	●7,673	*9,385	*11,317	*13,248	*15,214	*7,508	*9,053	*5,696
2.3	●7,339	*8,587	*10,354	*12,121	*13,919	*6,870	*8,283	*5,212
2.4	●7,033	*7,886	*9,509	*11,132	*12,784	*6,309	*7,607	*4,787
2.5	*6,617	*7,268	*8,764	*10,259	*11,781	*5,814	*7,011	*4,411
2.6	*6,118	*6,720	*8,102	*9,485	*10,892	*5,376	*6,482	*4,078
2.7	5,586	*6,231	*7,513	*8,796	*10,100	*4,985	*6,011	*3,782
2.8	4,964	*5,794	*6,986	*8,179	*9,392	*4,635	*5,589	*3,517
2.9	4,430	*5,401	*6,513	*7,624	*8,755	*4,321	*5,210	*3,278
3.0	3,970	4,963	5,925	6,918	7,881	*4,038	*4,868	*3,063
3.1	3,571	4,464	5,330	6,223	7,089	*3,781	*4,559	*2,869
3.2	3,224	4,030	4,812	5,618	6,400	*3,549	*4,279	*2,692
3.3	2,920	3,650	4,358	5,089	5,797	*3,337	*4,023	*2,531
3.4	2,653	3,317	3,960	4,623	5,267	*3,143	*3,790	*2,385
3.5	2,418	3,022	3,608	4,213	4,799	*2,966	*3,577	*2,250
3.6	2,209	2,761	3,297	3,849	4,385	2,761	3,297	*2,127

- 表中の数値はSFエコ自重と施工時作業荷重を含んでいます。
- 上表中の\*印はSFエコの曲げ降伏により許容荷重が決まっています。
- 上表中の●印はエンドクローズ強度により許容荷重が決まっています。
- 上表は中間支保工を設けない場合です。またRC、SRC造などの使用スパンが3,000mmを超える場合はスパン中間に支保工を設けて下さい。

# 標準納まり図 (S造)

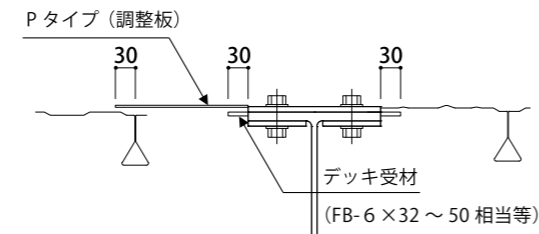


## A 幅方向標準納まり



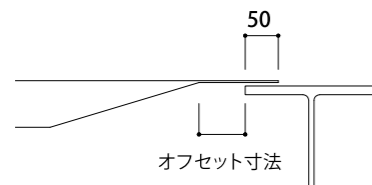
注) 標準品と役物、調整板の重なり部分は溶接又はビス等で接合して下さい。

## B 幅方向納まり(梁継手周り)



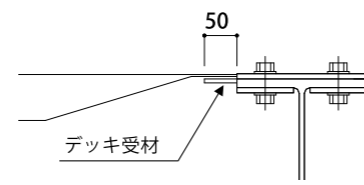
注) 標準品と役物、調整板の重なり部分は溶接又はビス等で接合して下さい。

## C 長手方向標準納まり



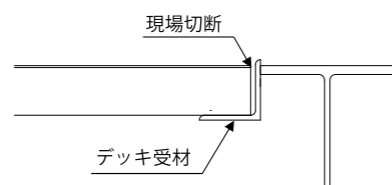
注) エンドクローズ部分の折れ防止のためオフセット寸法は40mm以下として下さい。

## D 長手方向納まり(梁継手周り)



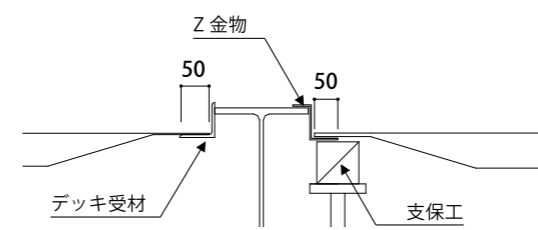
注) SFエコ両端に梁継手が位置する場合、エンクロ部分との干渉を避けるため、デッキ受材にはFB-6×32相当等を使用し、可能な限り、長くかかり代をとって下さい。

## E 斜め梁部納まり



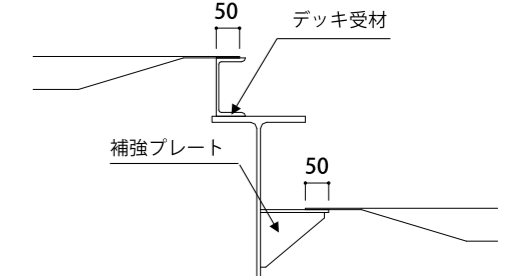
注) 切断部からコンクリートが漏れないように処置して下さい。

## 段差 長手方向梁周り納まり①

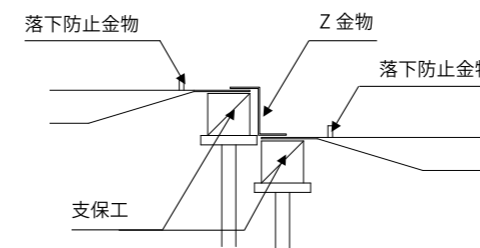


注) Z金物を使用する場合は、個々の検討により支保工の有無を判断下さい。

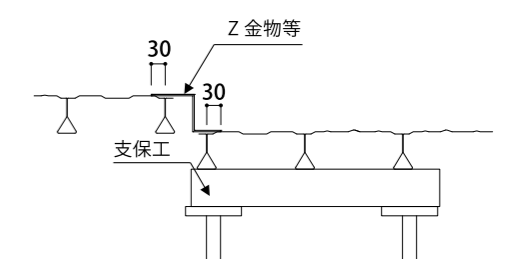
## 段差 長手方向梁周り納まり②



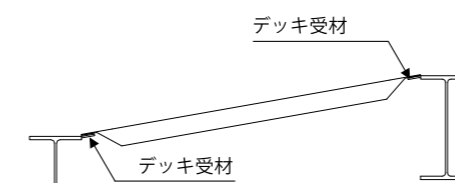
## 段差 長手方向納まり③



## 段差 幅手方向納まり

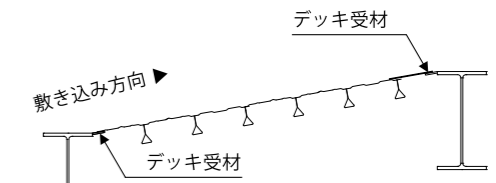


## 勾配 長手向納まり



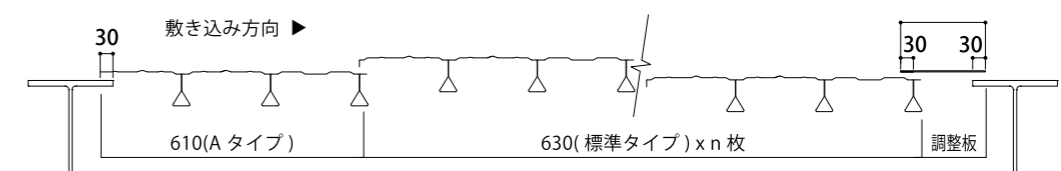
注) 適宜、滑り止め処置やSFエコのずれ及び落下防止処置を施して下さい。敷き込み方向勾配の場合は安全上下側から上側に向かって敷き込む施工として下さい。

## 勾配 幅手方向納まり

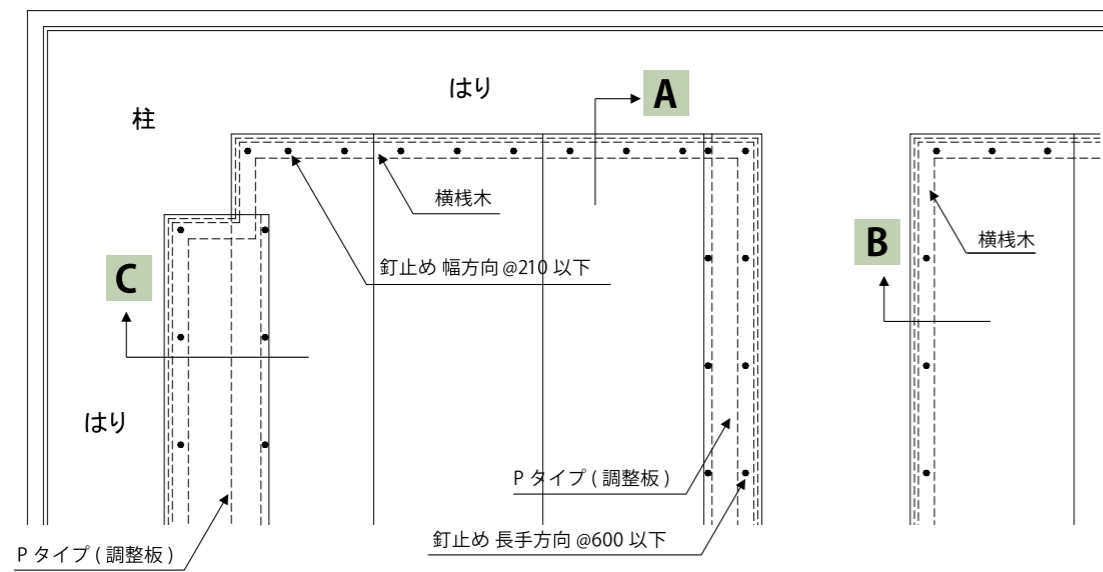


## 割付

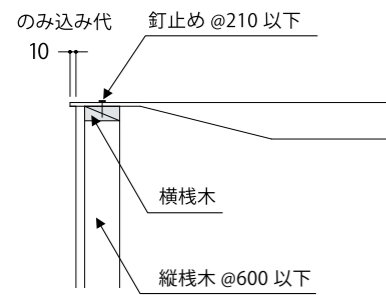
- (1) 原則として標準タイプを主体として割り付けて下さい。
- (2) 敷き始めと敷き終わりにはA,B,C及びPタイプ(調整板)を使用して下さい。



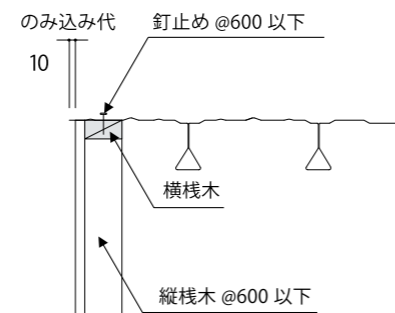
# 標準納まり図 (RC, SRC造)



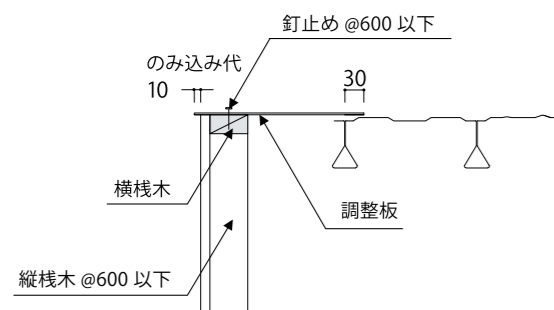
**A** 長手方向標準納まり



**B** 幅方向標準納まり(柱型無部分)

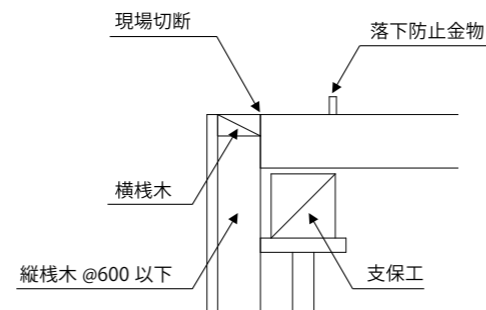


**C** 幅方向標準納まり(柱型有部分)



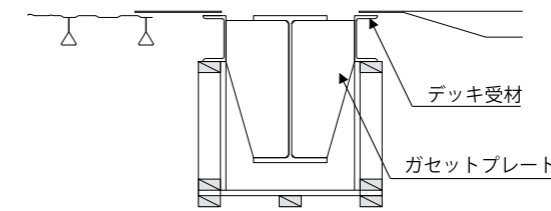
注) 標準タイプと役物、調整板の重なり部分は溶接又はビス等で接合して下さい。

**斜め梁** 斜め切断部分納まり

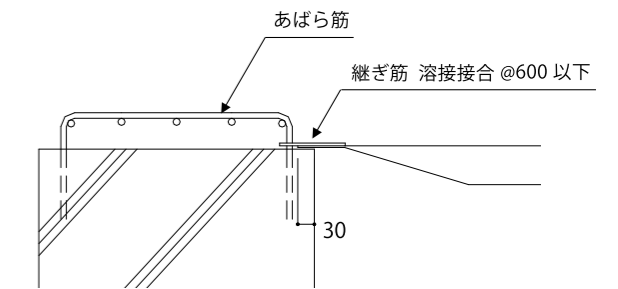


注) 切断部からコンクリートが漏れないように処置して下さい。

**SRC造** 梁周り標準納まり



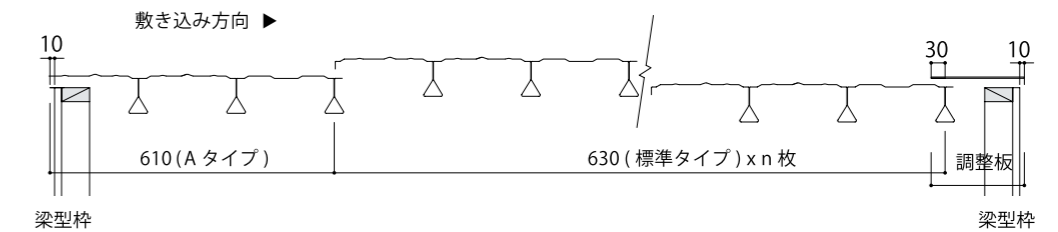
**地中梁・PC梁** 置きスラブ標準納まり



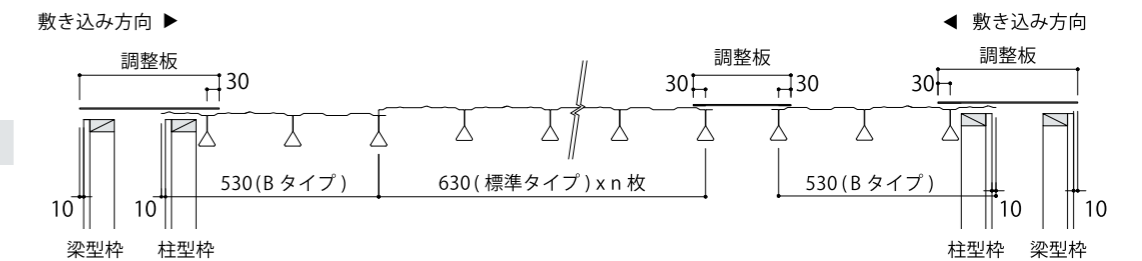
## 割付

- (1) 原則として標準タイプを主体として割り付けて下さい。
- (2) 敷き始めと敷き終わりにはA,B,C及びPタイプ(調整板)を使用して下さい。

**柱型無**

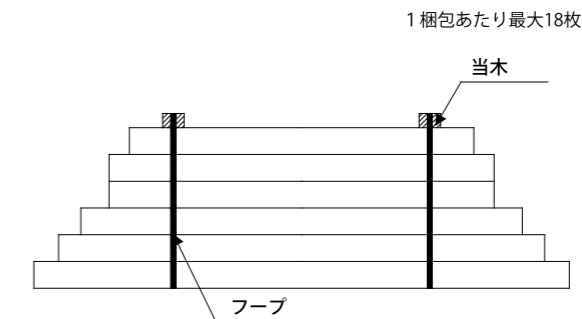


**柱型有**



## 梱包仕様(例)

**梱包仕様**



\* 役物 (A, B, Cタイプ) は標準タイプで挟み込むように梱包されています。